

平成25年度 第1回 滝川市子ども・子育て会議 議事録【概要】

平成25年12月10日(火)
13時30分～
市役所8階 大会議室

1. 開会(進行:保健福祉部 中川次長)

2. 委員委嘱

3. 市長あいさつ

4. 委員紹介(自己紹介)

5. 事務局紹介(自己紹介)

(市長退席)

6. 議事

①会長及び副会長の選出について

事務局より会長に田代委員、副会長に尾崎委員を提案。全員了承。

②滝川市子ども・子育て会議の記録、傍聴について

事務局より説明

(田代会長あいさつ)

— 以降、田代会長が進行 —

③子ども・子育て支援新制度の概要について(事務局より説明)

④滝川市子ども・子育て会議について(事務局より説明)

委員 ニーズ調査をするなり何なりということになるが、大前提として滝川市が子ども・子育ての部分に関し、5年間かけて、こうして行きたい、こういう方向に行きたい、それに対してどうこうしたいという具体的なビジョンをもし提示していただけるなら、早い段階で提示していただきたい。今日の段階で無理ということであれば、第2回、第3回の会議までにハッキリしてもらいたい。ニーズ調査を進めていただくと同時に滝川市としての目的、将来的なビジョンを加えていただければという意見を述べさせていただく。

事務局 これから新しい革新的なメニューとして子育て支援の施策が何か生まれるのかと言われれば、今の段階ではそういった答えはない。今、滝川市が動いている計画の基は、次世代育成支援行動計画であり、現状としてどこまで目標を達成しているかということを示しているが、一部未達成の部分もある。これはお金の事情ばかりではなく、そうしたニーズが生まれていないのではということややっていない事業もある。今、国が子育て支援法で考えている事業の中でも既に実施している事業もあり、法律の中では13の事業が示されているが、そのうち10は既存事業で、滝川市においても8～9は実施して

いるが、新たな3つは現在国の子ども・子育て会議の中で議論の最中である。この会議で将来のビジョンについて、みなさんのお知恵をお借りし、新しいものを何か生み出せないのかということについて、もっともなご意見だと思うので、国の事業の内容がハッキリとし、滝川市が取り組めるものがあれば、新たな課題として5年間の事業計画の中で取り組んで行かなければいけないと思う。それと併せてニーズ調査により、滝川で子育てをされている市民の方お一人おひとりがどんなところにもっと手厚くしてほしいとか、こういった取組がほしいといったあたりを探らせていただき、26年度に本格的な事業計画の策定作業をさせていただくことになる。もう少々お時間をいただき、そうしたお話しができるようになった際にさせていただきたいと思っている。

委員 スケジュールの中で、北海道との調整が数回あるということのようだが、26年度について本会議は何回程度の開催を予定しているのか。

事務局 最大5回程度になろうかと考えている。

委員 26年度については5回程度ということで理解した。パブリックコメントの時期は？

事務局 市議会に報告することを考えると、1月中には終了させたいと考えている。

委員 ニーズ調査を行うことは理解できるが、ニーズ調査の幅はどの辺まで拡げるのか。また、それに基づいて事業計画が策定され、道と調整をするととなると、先ほどのご意見でも野心的に、どこまでも広がるお話しも一部されていたが、地域の運動としてこれを捉えたとすれば、対象も幅広くなるだろうと思うが、道の調整があるということをもっと出されると、なんとなく意気込みがしぼみがちになる気がする。

事務局 道との調整と書かせていただいている部分については、数制的な部分が主になると考えており、滝川の子ども数が推移する見込みを立て、例えば保育所がいくつ、幼稚園がいくつあるのでこれだけの子どもたちを受け入れることができるというように計画の時点でなっているかという観点でのやりとりが主になろうかと認識している。委員がおっしゃるような、野心的な部分ということに関しては、道との調整という部分からは離れるのではと考えており、それを計画の中に織り込むとすれば、市の考えとして織り込めばよろしいかと思う。

⑤滝川市における子ども・子育て支援の現状について（事務局より説明）

委員 現在の利用児数が書かれているが、幼稚園に限っては、預かり保育という部分があり、利用している人の人数なども加えてもらえると良いのではと思う。幼稚園にお子さんを通わせながら働いている人も増えているかと思うし、保育所の中でも0から1、2、3歳と年齢によってどのくらいの人が含まれているのか、何歳からの人が必要としている

のかを現状の数として把握しておかなければ、ニーズ調査をしたところで、これから人口も減っていくことから、施設の数の調整もしていかなければならないと思うので、そうした必要性を感じる。

委員 ニーズ調査の前に、現状を把握されていないのでは。障がい児保育もすでに幼稚園で行っている。

事務局 幼稚園における障がい児保育に対する補助金を手掛けるなど、状況は認識しているが、資料作成においてその観点が抜け落ちていたことは申し訳ない。実態として障がい児の保育の受け入れが保育所だけではないということは、もちろん把握しており、お詫び申し上げます。

会長 委員にいただいた意見は、5カ年の計画を立てる上で大切な意見かと思う。とくに今、幼保の連携、小学校への接続ということで学校教育の部分も入ってきており、文部科学省、厚労省の関係も今まで以上に密になってくるし、滝川市も含んでいかなければならない部分と、委員がお話しされた、子育てをする上では就労、これは大きな要因となる。この会議には社長さん等もお越しいただいているので、5か年計画の中に就労部分の要望、働きかけも計画に盛り込まれれば、0歳児から小学校、そしてその上の就労までの大きな見通しが立てられるのではないかなと思うので、また、よろしくお願ひしたい。

⑥ニーズ調査について（事務局より説明：質疑なし）

⑦その他（なし：質疑なし）

— 以降、事務局が進行 —

7. 次回の会議日程について

事務局 次回の開催はニーズ調査の集計を完了させる必要があり、3月を予定しているが、あらかじめ都合の悪いタイミングを把握したい。

委員 卒業式やお彼岸時期は外してほしい。

事務局 今回同様、日程調整については個々にご連絡をさせていただき、次回の日程を決めさせていただきたいので、よろしくお願ひしたい。

8. 閉会